

名 称	いきいきキッズ応援団体験活動支援センター
所 在 地	〒519-1107 三重県亀山市関町木崎789-1
連 絡 先	TEL : 0595-96-3900      FAX : 0595-96-3900 URL : <a href="http://www.sekikids.net/">http://www.sekikids.net/</a>

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口    亀山市関町 約 7, 200 人

亀山市の関町地域は、三重県の北西部に位置し、林業と農業を中心に、面積約 80 平方キロメートル、その 8 割を山林に覆われた自然豊かな環境にある。古くは、日本三関の一つ、鈴鹿の関として、又、東海道五十三次の四十七番目の宿場町として発展してきた。江戸から京都へ続く東海道、関から奈良へと続く大和街道、伊勢神宮へと続く伊勢別街道の分岐点であり、現在も、国道一号、名阪国道、伊勢自動車道が通る交通の要衝として重要な役割を果たしている。

昭和 59 年には、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから、古きものと現代の生活を調和しながら、町並み保存をしてきている。観光化されないこの地域を訪れる人は、毎年増加傾向にあり、年間約 30 万人を数える。

毎年 8 月には、町並みの中心にある江戸時代の旅籠「玉屋」での宿泊体験学習会を行い、伝統文化に実際に触れて、古きものを見直したり、町並みワークショップなどで宿場町の良さと素晴らしさを再発見する機会を作っている。支援活動を通して、将来子どもたちが町を離れても、誇りが持てる大切な故郷として語れるように願っている。



## コーディネートした事例の名称、概要、特色

### 名称 「加太田んぼづくり」

加太小学校の児童約50人と老人クラブ、地域の有志（農業現役）による「田んぼづくり実行委員会」を組織し、育苗から収穫、そして餅つきまで体験した。

春、育苗箱での苗の成長を見学したり、川に「堰」をつくり、水路を通して田んぼに水を引いてくること、「堰」の修理や水路の掃除などを体験した。そして、始めて田んぼに水が入ってくる。次に、田んぼを平らにする「代掻き」をして、田植えができる大切な準備作業を教えてもらった。また、田植えの前に、どろんこ遊びも楽しんだ。昔は、この苗、一本、一本、手で植えていたことを聞いて、足腰がむちゃくちゃ痛くなること、続けてできる作業でないことがわかった。田植えの後、水の管理、草取り、肥料などが必要なことを学んだ。

そして、9月には稲刈りをした。機械（「コンバイン」という機械）で行ったため、手伝うことは少なかったが、「もみ」の重さで収穫の喜びを知ることができた。収穫した「もち米」は、地元主催の文化農芸祭で餅つきをして、児童と地域の人たちとの交流を深めた。

一連の行事を通して、一粒の米ができるまで、多くの時間と労働力が必要なこと、みんなが協力しあうこと、天候、自然に左右されること、そして、何よりも老人、地域の人たちとの触れ合うことの大切さを学習できたことが大きな財産となった。



## コーディネートの実際

○市子ども会育成者連絡協議会から

親子フェスティバルを開催するので、内容について協力してほしい

《依頼内容》親と子が何かを作ったり、体験させたりしたい。

(対応内容)

それぞれのコーナーに、「達人」を探してきて、手伝ってもらおう。

「昔遊び」・・・お手玉、ビー玉遊び、メンコをした。

「書」・・・筆だけでなく、ススキ、竹、稲穂、割箸、指などを使って字を書く。

「手作りロボット」・・・環境ワゴンの協力を得て、段ボールで「アシモ」君を作った。

「ニュースポーツ体験」・・・市レクリエーション協会に依頼して、輪投げ、ストラックアウト、ユニカールなどを行った。

「人権」・・・人権カルタ、紙人形劇、人権の樹などを行った。

それぞれのコーナーの達人を探すのが大変であり、また、各コーナーにおいて、あまり材料費がかからないもの考えることが難しい。

成果としては、親と子が一緒に楽しみ体験ができたこと、また、カルタをしながら人権を学べたことである。



○小学校3年生の総合学習の支援

当地域は、農林業と並んで、製茶業も盛んで、「伊勢茶」を特産物としている。

小学校の総合学習事業で、製茶までの過程と飲料の種類などを体験したい。

(対応内容)

実際は、茶園で葉を摘み取り、蒸し器にかけ乾燥して製品になることから、時間がかかるので、茶摘をした葉を電子レンジでお茶にする方法を体験させた。

飲み方は、お茶を煎じて飲むものと抹茶にして飲む方法があることを茶道の先生に習い、併せて茶道の心得、礼儀作法など茶道教室も開いてもらった。

畳の上での座り方、挨拶の仕方、飲み方、お茶のたて方など本格的な作法は、児童にとって初めての体験であり、日常生活の参考になった。

先生への謝礼、場所の借上げ料は不要であったが、抹茶代、菓子代に費用がかかった。

(学校が負担)

○小学校3年生の生活科の授業支援

わくわくおもちゃランド（動くおもちゃづくり）

物を大切にすること、自分でものを作り上げる喜びを体験する。

（対応内容）

日常生活の中で使っているものを材料としておもちゃを作る。

材料は、段ボール、紙コップ、割箸、輪ゴムなどを使って、おもちゃを作り、みんなで動かしてみ、仕上がり具合を分からせる。

スタッフには、定年退職者や家庭の主婦にお手伝いをお願いした。最初は、児童に教えることへのためらいが見られたが、時間が経つにつれて、人生の経験を上手くいかし、教えてみえた。また、障害のある児童の参加もあり、みんな協力して、出来上がりも良く、楽しそうであった。

簡単なものを作成し、お互いに自慢しあったり、創作意欲も湧き、楽しい一日でした。



執筆者職・氏名：亀山市教育委員会 生涯学習室 主幹 井分 信次